

# 二三事

## 病院からの報告

(昭和46年2月22日～2月23日の斗い)

敵＝空港公園、千葉県知事、納谷人など

けり狂った攻撃に筋固たる反撃の決意を持つて、三里塚芝山連合空港反対運動は、2月22日、斗いの場である駒井野の地に、野獣病院を設きました。

野獣病院は、全員から結集した反対同盟を支撐するものによって、医療隊は勿論のこと、教官の異常による「がんを主因の精神の崩壊」を露出する「シカ隊」、聖鷦浴の一員として、反対同盟と

一時も早く病院へ運び自動車隊／隊員数百名以上のものによって隊を編成して斗いました。明大連立対策委員会からも代表／名が、野獣病院の一員として、反対同盟と

ともに毎日闘いを繰り広げました。聖

唐さはねりで斗い始めた農民や労働者、学生、市民に襲いかかり、凶器を当てるも逮捕しました。またこの日の午後、豈から突

き病院は、常に信託の守る範囲を突破した。キム隊員が梯子の上に登ったため、

殴り打つなどされたもの、橋、壁等の殴打により頭部などに傷を負ったもの、豈から突

き病院に対し、橋で上から落おいで、誰からも見えないよう、物的威嚇を施さ

ないようにして、聖唐さはねりが暴力をふりかかり、弱らせてから金員を逮捕した。この範囲は、こんでいた部隊に対し、橋で上から落おいで、誰からも見えないよう、物的威嚇を施さ

ないようにして、聖唐さはねりが暴力をふりかかり、弱らせてから金員を逮捕した。この範囲は、

3月22日、空港公園飛行場と報道によると、

空港公園、千葉県知事、納谷人など

のうち反対同盟

でのまいでもなく、源井庄人氏、無謀甚とがり

而く日本襲撃事件としてにならべぐ「三軍

自衛隊の使命を奪うべからずへどんるに大き

な軍隊をもつてきて、士に迫れあらうと

もさう人の手をもとむことはできぬし。」

という決意をして、ヨウ同國民百余名は

肉東宮正はくる長老、齊國氣から、せ集め

た4名の大將軍を「御以上便」で、セ

めおとすことをさせらがつたオーナー也

實行していく。

また、三重県現地裁判本訴、野瀬病院で

は、彼らのキレいに叫びして「ニト並りをブ

レハブに建てかえて、6日早けりやう月末

にも行われようとしているオニ次裁判代龍

行した向うで強固な決意のそとに、反對を開始しようとしている。

(5)

症状よりみて、2月25日のオニ病院、

3月25日のオニ病院における害ガスは、C

Sヘクロムニルス(ノトリル)、3月30日の

ナラヤ家の食事はCNへクロルアセトエシ

トと思われる。

参考(告発)2号による)

嘔瀉が重複して、嘔瀉に用いられる液体

とはCN5名、西田正一郎、西田信吾の飲液と

Sヘクロムニルス(ノトリル)、3月30日の

ナラヤ家の食事はCNへクロルアセトエシ

トと思われる。

3月25日のオニ病院における害ガスは、C

Sヘクロムニルス(ノトリル)、3月30日の

ナラヤ家の食事はCNへクロルアセトエシ

トと思われる。

CNは今まで、19年の1月18日、19日の東

大、2月9日、10日の内閣、5月23日の明大

学館病院はじめ多くわれていた。CSはや

とくにさざれ、了の学生が所吸停止乞ひ

をここしたばかり、ボクサイド地区の乳児の後

遺傳が続出した北アリランドをはじめ、最

近の例では、朝日新聞この夕月3日米軍は

ケサンを撤退した際に多くとも、半ばは人が

住めないようCSが次の船団をもいてました

ところが日本において、CSガスが使われた

のは2月25日の三重県が最初だと思われる。

CNの作用範囲は限られたが、CSのそれは

吸入を含む、効果は前述したように、CNの

60倍にうすめたものである。密室として用

いられる四塙化エラレニコは集団中毒神経

毒である。ある口うごくノゾムは、口ケツ

の口うきの自動化装置工4-1を使用

中突然生身の姿を尋ねると夫に「二等兵

を養生、眼火灼熱感、多量の流涙、充血、

呼吸困難に罹れば、累動鏡工削」と

あるCSとCNの効果は、CS-1膏油効果

を養生、眼火灼熱感、多量の流涙、充血、

呼吸困難に罹れば、累動鏡工削」と